

1. 評価報告概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	1970300123
法人名	社会福祉法人 光風会
事業所名	グループホーム ひかり長屋
所在地	〒 404-0035 山梨県甲州市西野原600番地 電話番号 055-333-8611

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	山梨県甲府市北新1丁目2-12号		
訪問調査日	H. 20. 12. 1	評価確定日	平成20年12月25日

【情報提供票より】平成20年11月3日 事業所記入

(1) 組織概要

開設年月日	H. 15. 11. 1						
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人				
職員数	12人	常勤	6人	非常勤	6人	常勤換算	3.1人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1 階建ての 0 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,280 円	その他の経費(月額)	10,000 円	
敷金	<input type="checkbox"/> 有() <input checked="" type="checkbox"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="checkbox"/> 有(100,000) <input type="checkbox"/> 無	有りの場合 償却の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
食材料費	朝食	0 円	昼食	0 円
	夕食	0 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 1200 円			

(4) 利用者の概要 平成20年11月10日 現在

利用者人数	17 名	男性	2 名	女性	15 名
要介護1	7 名	要介護2	4 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	74 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	牧丘医院、高木歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】作成日 平成20年12月13日

この施設は果樹園に囲まれ、小高い所に設置されていることから展望は格別で日当たりも良く、特別養護老人ホーム、デイサービスに隣接したグループホームである。建物は木造平屋建ての2ユニットで窓も多く、開放的な印象をうけた。ユニットの中央には、多目的ホールがあり、諸行事だけでなく、天候に左右されることなく、ミニスポーツやゲームを楽しむことができる。このホールは、災害時、利用者の避難経路ともなっており、安心安全にも配慮された造りとなっている。そこから続くふれあい広場と菜園は、利用者が野菜作りを楽しみ、収穫をし、季節ごと収穫されたものを楽しんでいる。利用者本位で、ゆったりとしたペースの支援が行われており、利用者同士、職員との関係も家族という感じがある。管理者の温厚な人柄と豊富な経験が業務に活かされている。若い職員も質の向上を追求しており、チームワークのよさが感じられた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回改善点:①地域とのふれあいについては、機会毎、触れ合いを自然な形で②家族会の設置については、継続して検討③馴染みながらのサービス利用については、利用前、何回も来所してもらう、家族に付き添ってもらう④家族会の設置については、継続して検討事項である。評価結果については、担当者が全職員に回覧し、改善点については、各ユニットごと話し合っている。結果は法人上部に提出している。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価を実施する意義を理解し、全職員で確認している。自己評価については、全職員で実施している。評価結果は全職員で共有し、更なる支援の向上を図っている。地域との馴染みの関係づくりが活発になってきていることは評価される。
	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 毎年度2~3回、区長・民生委員・利用者・家族・市職員・包括支援センター職員等が参加し、開催されている。今年度、開催されたのは1回である。年度末までに1回開催予定である。議題がマンネリ化をしており、委員会の機能を発揮するまでに至っていないといわれている。日頃の利用者の様子を積極的に伝えたり、自己・外部評価結果など活かして話題提供することが、具体的なサービスの向上につながるのではないかと。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 利用者の日々の暮らしぶりを伝える「長屋たより」が発行されていて、家族にも好評である。また、来所時には、近況を知らせたり、積極的にコミュニケーションをとって、意見や要望の把握に努めている。納涼祭を家族は集まる場としており、家族の意見を取り入れるようにしている。金銭出納帳は郵送されているが、サイン等はないので今後確認の方法について検討されたい。入り口には意見箱が設置され、苦情申し立て相談窓口がわかりやすく明記されている。
	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域主催の敬老会に参加する方もいる。ゲートボールの会はとても好評であり、大会にも多数参加している。近隣の保育園や小学校の行事に参加したり、園児等の来訪もあり、よい関係が築かれている。地域住民とは散歩中挨拶を交わすなどしている。周囲に民家が少ないので、地域の方と活発な交流は難しい状況であるが、今後地域の方々からグループホームへの理解を深められるよう働きかけを期待したい。

2. 調査報告書

事業所名：グループホームひかり長屋

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「尊厳と自立」をホームの理念として、利用者のADLの維持向上を目指し、管理職・職員とも支援に取り組んでいる。地域の中のホームとしての理念が、かかげられていない。	○	現在の理念に、更に地域密着型のホームとしての理念を加えられたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	室内には理念がわかりやすく掲げられてあり、日々のケアの中で具体的に共有し、利用者が快適な生活が送れるよう支援に取り組んでいる。定例のユニット会議でも話し合われて確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の敬老会、保育園や小学校の行事には全員で参加している。地域でのゲートボールは、好評で大会にも多数参加し交流を深めている。又、小中学生の来訪もあり、よい関係が出来ている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で評価の内容について情報を共有し、日頃のサービスの振り返る機会としている。自己評価・外部評価を通し、利用者の意に沿ったサービスができるよう、職員全員の意思を統一するようにしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長・民生委員・利用者・家族・市職員・包括支援センター等の出席した推進会議は、今年度開催されたのは1回である。来年3月までにもう1回、開催予定である。なかなか開催できないのは、議題がマンネリ化しているためと考えられている。	○	ホームの様子を積極的に伝えていくことで、ホームへの理解を深めてもらえるよう、今後働きかけ、開催回数を増やしていく事が望ましい。自己評価及び外部評価などを活かして、話題提供をすることで、事業所の運営について話し合いができ、具体的なサービス向上につながるのではないかな。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターの研修や、甲州市の福祉施設連絡協議会等と交流をもって、会議や勉強会には積極的に参加し、市町村との連携を図るよう努力されている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族のホームへの来訪は頻繁にあり、その都度利用者の様子を伝えている。月1回、利用料等の請求時、「ひかり長屋だより」や金銭出納についての報告を同封している。しかし、確認のサイン等はない。健康状態等で必要な際は、電話で連絡をしている。	○	金銭出納帳は郵送されており、家族には理解されているところであるが、機会あるごとにサインをいただき確認を取っておく事が望ましい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入り口に意見箱が設置され、苦情申し立て相談窓口がわかりやすく明記されている。家族会はないが、年1回、納涼祭に家族が集まる機会を設け、意見を取り入れるようにしている。苦情処理のため、第三者委員も設置し、その都度対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者・ご家族への信頼関係を築くためにも、馴染みの職員が対応することが重要と考えている。現在、法人内の異動があるが、利用者のダメージにならないよう、徐々に馴染みの関係になっていけるような関わりをしている。離職への対応としては、早急に話し合い職員の補充し、利用者へのサービス低下を防止している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設長が代表を務る全国老人福祉大会に参加している。法人内では研修委員会が設置されており、研修計画が立てられ、順次、研修に出席している。定期的に学習会を開催したり、市主催の研修会に積極的に参加し、内容は回覧等で伝達し、共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市連絡協議会の研修会に参加し、事例提供や意見交換をしたりしている。峡東地区の同業者とレクレーションの機会を持ち交流を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス開始時には、利用者の不安が少しでも軽減できるよう、アセスメントを重ねたり、何回でも来所して、理解していただいている。言葉かけや関わりに充分配慮するとともに、馴染みのものを持ち込むことや、慣れるまで家族に付き添っていただいている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者それぞれ得意分野での役割を担当し、野菜づくり、料理、洗濯物干しなど、職員は教わりながら作業をしている。職員は、利用者のこれまでの生活歴を踏まえ、日々の様々な場面で、利用者を尊重し、明るく過ごされている様子が伺えた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始前の聞き取りや、利用開始後の職員との関わりで得た情報、日々の暮らし方の中、会話やかかわりあいの中で、利用者が望むことを、できるだけ把握するように努めている。職員は日々の暮らしぶりをノートに記入し共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々のケアのなかで、気づいたことをメモ帳に細かく記入し、情報を全職員が共有し、月1回のミーティング時、検討され、利用者本位の介護計画が検討されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員は、日々の生活の中で、気づいたことを記録したり、家族と相談する中で、利用者の状態変化を計画に反映している。更に月1回、職員全員で利用者全員のモニタリングを行い、必要に応じて計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のデイサービスを利用し、音楽療法に参加している。突然の通院や送迎、買い物などにも柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう配慮している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携の医療機関の他、利用者の希望に沿った、かかりつけ医の受診支援を行っている。医療機関ともなじみの関係を築き、月1回、居宅管理指導で往診も行ってもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始時、家族・利用者にホームの方針を伝えている。利用者及び家族の希望にできるだけ沿って方針を立てている。現在、当ホームでのターミナルケアを希望されている方がおり、家族・主治医・職員で話し合いを重ね、対応を検討している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳を損ねることのないよう、言葉遣いには充分配慮している。理念の「尊厳と自立」を常に念頭におき、利用者の誇りを大切にサービスを提供している。個人情報の記載された記録等は、厳重に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の利用者にあわせ、ゆったりと見守る支援が行われている。1日の生活の流れも、利用者の希望に合わせている。役割や楽しみなども職員が把握しており、常に耳を傾け受け止めて、利用者の活動意欲を起す支援がされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の収穫から、下ごしらえ、調理と楽しみながら行っている。週1回は創作料理とあって、各ユニットごとに利用者と職員で話し合って、好きな献立を考えている。食事作りは一番の楽しみであり、いきいきとした表情で、片付けも率先して行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1日おきに入浴していただいている。希望でシャワー浴など毎日できる。入浴を拒む利用者には無理強いせず、誘い方を工夫したり、家族の協力をいただいたりし、様子をみながら入浴を勧めるようにしている。入浴時間は、順番など個人の希望を取り入れている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家族や本人からの聞き取り、生活シートから得た情報を基に書道、茶道、農園での農作業など、各自、得意とする分野で楽しみごとを支援している。月に1回、花屋さんを講師にフラワーアレンジメントも行っており、できた作品が居室に飾られており明るい雰囲気である。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩の希望者は多く、ホーム周辺の散歩を雨の日でない限りを行っている。月に1回の外食では、各自好みのものを食べている。又、桜の花見や紅葉見物、博物館見学のドライブは好評であり、季節感を味わっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は、鍵はかけていない。利用者が1人で外出する場合は、自然な形で同行するようにしている。法人内デイの職員とも見守り体制ができおり、マニュアルに沿って全職員が認識されており、連携プレーも確立されている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルが作成されており、2名の防火管理者を中心に、夜間訓練や様々な状況を想定した訓練を年1、2回訓練を行っている。夜間の訓練は併設の事業所に協力を依頼している。ホームには食料・ヘルメット・懐中電灯など備えられている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は法人内の管理栄養士がたてており、バランスの取れた献立になっている。食事量・水分量は一目でわかるチェック表となっており、職員間で共有し、健康状態を管理している。利用者に状態に合わせて食事の形態を変え、食べやすいように配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関の奥に共用のホールがあり、多彩な行事ができるよう配慮されている。共用の空間は天井が高くゆとりを感じられる。ソファーやこたつ等、利用者が好む場所で寛げるようになっている。更に居室以外の随所に椅子が置かれ、居場所を作っている。季節の花をで飾ることで、季節感を取り入れるなど、随所に工夫がみられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は広々として、清潔にされている。温かみのある照明器具や障子などが使われている。布団などの寝具等は、利用者の好みにあわせたものを利用している。お仏壇や鏡台など、利用者の馴染みの物が持ち込まれ、利用者が居心地が良いよう配慮されている。		